

# 17 ナシ産地の現状分析に伴う高品質果実の安定生産支援

## ■ J A 香川県豊南地区なし部会 ■

(西讃農業改良普及センター 片桐孝樹)

### ●対象の概要

豊南地区なし部会は、観音寺市豊浜町和田地区を中心に45戸で構成されており、29haの園地でナシ栽培に取り組んでいる県内唯一の生産者部会である。同地区におけるナシ栽培は、100年以上の歴史があり、「ハウナンの梨」として販売を行っている。

現在、収穫された果実は、選果場に集められ、光センサー選果機による糖度選別を行い出荷されているが、特に主力品種である「幸水」と「豊水」の糖度12.5度以上の果実は、さぬき讚フルーツとして出荷され、有利販売に繋げている。

### ●課題を取り上げた理由

豊南地区のナシ栽培は、平成16年の大規模災害からの復興に丸一となって取り組んだ結果、被災前の活気を取り戻すまでに至った。

しかし、一方で生産者の高齢化等から栽培条件の悪い園地や老木化の進んだ園地を中心に廃園が増加傾向にある。また近年は、春先の低温や収穫前からの長雨や日照不足の異常気象により、糖度の低下や収穫量が減少するなど、生産が不安定な状況にある。

そこで、普及センターでは、豊南地区なし部会やJ A香川県西部果樹振興センターと連携しながら、ナシの安定栽培や高品質果実の生産を目的に、売上げや出荷状況から見た現状の分析を行い、検討された課題に基づき活動に取り組んだ。

### ●普及活動の経過

#### 1 生産者の販売金額によるパレート分析

平成25年産の販売における生産者別販売金額等の調査により、販売金額別にグループに分けて、全体の生産構造やグループ毎の特徴、状況等について分析を行った。

#### 2 選果データに基づく低糖度園地調査

同年の選果データに基づき、特に糖度の低い園地を対象に、園地や樹体の状況、栽培管理等の調査を行い、26年度以降の産地における取り組みについて部会役員とともに検討した。

#### 3 高品質果実の安定出荷を図るための害虫及び鳥獣害対策展示ほの設置

生産低下の一因となっているカラスの防鳥対策として鳥獣害担当と連携して、「くぐれんテグスくん」の展示ほを設置した。

また、収穫期のカメムシ及び夜蛾の防除対策として、電球型LEDランプを利用した展示ほを設置し、効果と経済性について検討した。



くぐれんテグスくん及び電球型LEDランプの設置状況

#### 4 販売状況に基づく、新たな販路開拓の取り組み支援

近年の販売状況から、旬別出荷量や単価の推移、市場や産直施設の流通等のデータに基づき、販路の拡大や新たな販路開拓について検討を行った。

また、「ハウナンの梨」のPRとして、さぬき讚フルーツ大使のイベントや消費者との交流会を関係機関と連携して開催し、消費拡大に努めた。

#### 5 新技術の導入検討

なし部会生産部を対象に、将来的な生産量の確保や園地の再編に向けて、神奈川県農業技術センターで開発されたジョイント栽培の取り組みを紹介し、現地調査を実施した。今後、ナシの早期成園化と省力化を行うため、苗木生産を支援した。



さぬき讚フルーツ産地交流会の様子

## ●普及活動の成果

- 1 生産者毎の販売金額を積上げたところ、ナシは、他の品目に比べて、各人の平均単価の差が小さく、累積額は緩やかに、収穫量に比例していることが判明した。

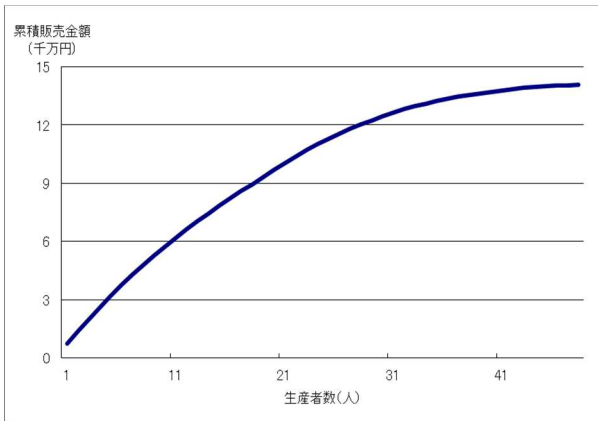


図-1 豊南地区ナシ部会における販売金額累積 (平成25年産)

- 2 低糖度園地は、共通して徒長枝の発生が多く窒素が過剰傾向にあることや新梢の摘芯等の管理が不十分なこと等が判明した。
- 3 生産対策として、有機物主体の土作りや新梢伸長期の管理等を重点事項として、講習会等での普及に努めた結果、27年産果実に関しては、秀品率が90%以上となり、糖度の高いさぬき讚フルーツの出荷割合も40%に向上した。
- 4 展示ほの設置結果は、防鳥対策の「くぐれんデグスくん」の効果は高く、今後、耐久性について検討を要する。カメムシ及び夜蛾対策の防蛾灯の電球型 LED ランプは、次年度延べ設置面積で50aの拡大が図られることとなった。

- 5 近年の販売状況 (図-2) を検討した結果、市場への出荷時期を8月に集中させることや地元の直売所をはじめとした県内産直施設を中心の出荷 (出荷割合 26年産47%→27年産70%) に切り替えることを提言した。

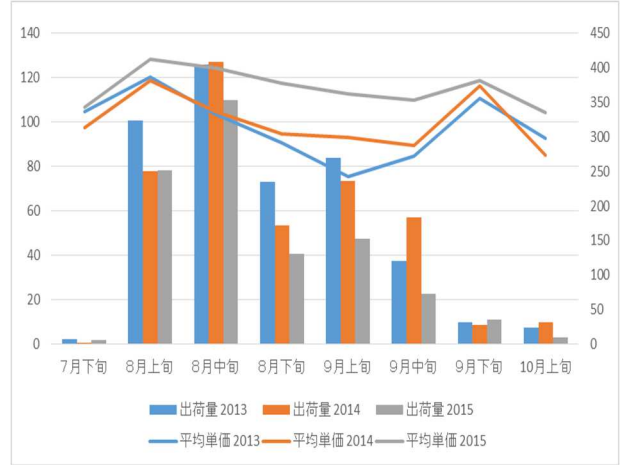


図-2 旬別出荷量及び単価の推移

- 6 平成27年は、開花期の低温や台風により、前年に比べて出荷量が3割以上低下したものの、産地交流会の開催や産直中心の販売対策に取り組んだ結果、全体の販売額は1割程度の減少に留めることが出来た。

## ●今後の普及活動の課題

ナシの生産者の高齢化から老木化の進んだ園地を中心に廃園が増加傾向にある。これを解消するため、ジョイント栽培の普及推進を行う。

また、産地の将来を担う若手生産者を中心に、ジョイント栽培の技術習得とリーダー育成を兼ねて、普及推進を図っていくこととしている。



ジョイント栽培の視察研修 (神奈川県)